

(別紙様式 4)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
呉竹医療専門学校	平成 21 年 3 月 31 日	細野 昇	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-185-1 (電話)048-658-0001		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 呉竹学園	昭和 31 年 10 月 17 日	理事長 坂本 歩	〒160-0008 東京都新宿区三栄町 3 番地 (電話)03-3341-4043		
目的	本校は、はり師及びきゅう師の養成に必要な高度の専門知識及び技術を授けるために、臨床現場や専門領域などの最前線で活動している経験豊富な企業、地域の業界団体及び学術団体等と連携を図ることによって、国家試験や実技審査への対応にのみとられることなく、社会の要請に対応した実践的教育を提供するとともに、一定水準の実践技能を修得したことを確認する体制を構築して、国民の保健衛生の増進に寄与できる有為の人材を育成することを目的とする。				
課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療専門課程	鍼灸科 I 部	3 年 (昼)	2 6 8 0 単位時間 (又は単位)	文部科学省告示第 152 号(平成 22 年 11 月 29 日)	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1 9 3 0 単位時間 (又は単位)	— 単位時間 (又は単位)	— 単位時間 (又は単位)	9 0 単位時間 (又は単位)	1 0 4 0 単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 8 0 人	7 0 人	1 9 人	2 4 人	4 3 人	
学期制度	■ 1 学期 : 4 月 1 日から 9 月 30 日まで ■ 2 学期 : 10 月 1 日から 3 月 31 日まで		成績評価	■ 成績表 (有・無) ■ 成績評価の基準・方法について 学業成績は、各学科試験及び実技 試験の成績及び出欠席状況等を考慮 して評価する。	

長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4月1日 ■夏季：8月1日から8月25日 ■冬季：12月25日から1月5日 ■学年末：3月31日 	卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業要件：次の①から⑤の全てに該当する者。①卒業までに必要な単位をすべて修得している。②卒業までに修得すべき専門分野、専門基礎分野、選択必修科目及び選択科目のGPAが2.0以上。③一次卒業試験、二次卒業試験及び三次卒業試験のいずれかに合格している。④実技認定試験に合格している。⑤期日までに所定の学費を納入した。 ■進級要件：次の①から④の全てに該当する者。①当該年度で修得すべき基礎分野、専門基礎分野、専門分野及び選択必修科目の単位をすべて修得した。②当該年度で修得すべき専門基礎分野、専門分野（実習を除く）、選択必修科目及び選択科目のGPAが2.0以上。③当該学年末の進級試験の結果、全科目の平均点が60点以上である。④期日までに所定の学費を納入した。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制（有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 1週間以上連続して欠席する者には、事由を聴取した上で欠席届を提出させている（病欠の場合は原則として診断書を提出）。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の10%に達しようとする者には、担任及び科目担当者から口頭で注意を促す。20%に達しようとする者には、科長などが面談を行い授業に復帰できるように補習などを行う。30%に達しようとする者には、保証人に連絡を取り三者面談を行うなど、原級留置の注意を喚起している。また、成績不良科目（60点未満）については、再試験や補習を行い、成績の向上を図っている。 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 スポーツ大会 学園祭 呉竹医学会学術大会 東洋療法学校協会学術大会 ■サークル活動（有・無）
主な就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界 治療院、病院・診療所、介護施設など ■就職率 70.0%（就職希望者20名） （平成26年5月1日現在） 	主な資格・検定	はり師、きゆう師の国家試験受験資格
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者 1名 ■中退率 1.3% 平成25年4月1日在学者 77名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 76名（平成26年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 自主退学 ■中退防止のための取組 学業不振や学校生活での悩みの相談を受ける学生相談室を設けた。 		
ホームページ	URL： http://www.kuretake.ac.jp/o_therapeutic/		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家試験や卒業要件となる実技審査のみにとらわれることなく、国家資格取得後に職域で遭遇することの多い疾病に対する実践的かつ専門的な技能の修得のために、施術所、診療所・病院及び福祉介護施設などの企業、地域の職業団体及び学術団体等（以下「企業等」という。）の専門性、高い技術力及び豊富な経験等を活用して、社会の要請を反映した授業科目の設置や授業の展開方法の工夫等を行うとともに生徒の修得水準を企業等と学校が協力して評価する。このような取り組みを含む教育課程全般について、学校は教育課程編成委員会へ報告し審議を受ける。教育課程編成委員会の意見や要望については学校教育課程の編成にかかる作業部会において検討したうえで、教育課程の編成に反映する。

本校における一連の自主的な取り組みを持続可能とするために、企業等との連携は、生徒の就職先の人材の専門性の動向、地域振興の特性や方向性及び新規の成長領域をとらえた実践的かつ専門的な授業等を実施することができ、年間を通じて組織的に学校と協力して授業を行える企業等を対象として行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名前	所属
河原 保裕	公益社団法人埼玉県鍼灸師会会長
長嶺 芳文	有限会社ながみね治療院
千 景剛	ウーさんの中医鍼灸院院長
福島 聰一郎	(株)三喜堂代表取締役社長
高野 耕造	呉竹医療専門学校非常勤講師・高野治療院院長
細野 昇	呉竹医療専門学校校長
小川 裕雄	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长
畠山 博式	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
坂本 収司	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
坂本 辰徳	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
柏崎 勝	呉竹医療専門学校事務長
権田 良則	呉竹医療専門学校事務長補佐

(開催日)

第1回平成26年9月6日

第2回平成27年2月7日

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等から派遣された経験豊富な講師を起用し、実践的な実習・演習等の授業を行う。企業から派遣された講師は、患者さんへの接し方や施術方法等について、日常の臨床経験を生かした実践的かつ専門的な実技実習指導を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
鍼灸臨床実習	医師による診察(問診、徒手検査、検査)、診断、治療の過程を学ぶ。医師やメディカルスタッフがどのように連携して患者さんの治療にあたっているのか一連の流れやそれぞれのスタッフ役割について、事前にオリエンテーションを行って見学に臨み、鍼灸師として医療機関との連携を図るために必要となる心構えを養う。	呉竹メディカルクリニック 山王リバーズ鍼灸院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校は、教職員の専門性の向上と人材育成を目的として計画的に研修を受講させるほか、教職員が自己啓発により自ら学ぶことを奨励する。学校は、教職員に対し常に関連分野における先端的知識を得られる環境を与え、資質の向上を図り、もって教育目標の実現に努める。学校は、研修や自己研鑽による教職員のスキルアップを評価し、考課を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名前	所属
河原 保裕	公益社団法人埼玉県鍼灸師会会長、在校生保護者
藤井 英之	藤井接骨院院長、在校生保護者
高橋 知則	公益社団法人埼玉県接骨師会常務理事
古川 雅宏	呉竹医療専門学校呉竹会会長
細野 昇	呉竹医療専門学校校長
小川 裕雄	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长
川口 央修	呉竹医療専門学校柔道整復科科长
畠山 博式	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
坂本 收司	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
坂本 辰徳	呉竹医療専門学校鍼灸科鍼灸マッサージ科科长補佐
本多 修二	呉竹医療専門学校柔道整復科科长補佐
柏崎 勝	呉竹医療専門学校事務長
権田 良則	呉竹医療専門学校事務長補佐

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL : http://www.kuretake.ac.jp/o_therapeutic/about/evaluation.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL : http://www.kuretake.ac.jp/o_therapeutic/about/public_info.html

授業科目等の概要

医療専門課程 鍼灸科 I 部 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			総合基礎 I	【中国語】中国語の学習の基礎であるピンイン・四声を基本から学び、中国語の日常会話の練習を行います。同時に中国語の初歩的な文法を学習し、簡単な中国語の構造を押さえ、中国語の辞書を使えるようになることを目的とします。また、中国の日常や習慣も適宜紹介し、言葉の背景である中国の文化に親しみ、中国に対する理解を深めていきます。	1 ①	30		○		
○			総合基礎 I	【生物 I】ヒトについての生物学を学び、人間も環境に適応しながら生存する生物の一員であることを認識し、生命活動の基礎的仕組み(自己保存と種族保存)を理解する	1 ①	30		○		
○			総合基礎 I	【文章表現法】昔から「読み・書き・そろばん」が教育の根本だと言われる。そこで本科目では多様なジャンルの小品を読み(読解)、筆者の主張のまとめ及びそれに対する各自の主張を書くこと(表現)ができるようにしたい。つまり、事実を正確に伝える文章力の養成を目標とする。	1 ②	30		○		
○			総合基礎 I	【心理学】心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。	1 ②	30		○		
○			総合基礎 II	【英語 I】グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分理解し修得する。	2 ①	30		○		
○			総合基礎 II	【化学】まず、物質の性質やいろいろな反応などについての基礎的な化学知識を身につける。そして、専門基礎分野並びに専門分野へ繋がる幅広い知識を修得する。	2 ①	30		○		
○			総合基礎 II	【英語 II】グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分理解し修得する。	2 ②	30		○		
○			人体構造機能学 I	人体の構造と機能を理解する。	1 通	160		○		
○			人体構造機能学 II	人体の構造と機能及び関連する疾患を理解する。	2 通	160		○		
○			人体構造機能学 III	人体構造機能学の知識を「解剖学」と「生理学」の観点から分けて理解する。	3 ①	40		○		
○			診察総論	臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。	2 ①	40		○		

医療専門課程 鍼灸科 I 部 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			疾病各論 I	1年時に学んだ人体についての解剖学・生理学をもとに、人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を理解する。主要疾患の特徴や必要な知識を理解し、鍼灸の適応か否かの鑑別ができるようにする。	2通	80	○			
○			疾病各論 II	1年時に学んだ人体についての解剖学・生理学をもとに、人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を理解する。主要疾患の特徴や必要な知識を理解し、鍼灸の適応か否かの鑑別ができるようにする。	2②	40	○			
○			疾病各論 III	1年時に学んだ人体についての解剖学・生理学をもとに、人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を理解する。主要疾患の特徴や必要な知識を理解し、鍼灸の適応か否かの鑑別ができるようにする。	3②	40	○			
○			病理学	臨床に必要な病理学の基礎を学び、疾病についての考え方を深め理解する。	3①	40	○			
○			リハビリテーション医学 I	リハビリテーションの概念(理念)、障害の定義及び分類について理解する。	2②	20	○			
○			リハビリテーション医学 II	リハビリテーションの障害の定義及び分類について理解する。 各疾患に対する分類とリハビリテーションを理解する。	3①	40	○			
○			保健と医療 I	免許を与えられて施術を行う責任感を持てるように、あはき法(按摩・マッサージ・指圧師、鍼師、きゅう師等に関する法律)を学習する。鍼灸師としてわが国の衛生の向上に関わっていく心構えを持てるように、医療概論を学習する。	1②	20	○			
○			保健と医療 II	わが国の衛生上の課題や問題を念頭におきつつ、責任感を持ってあはき師(按摩・マッサージ・指圧師、鍼師、きゅう師)として業務を行えるように、衛生学を学習する。	1通	80	○			
○			東洋医学概論 I	東洋医学の診断、治療に結びつけられる様に東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概を理解する。	1通	80	○			
○			経絡経穴概論 I	全身を流れている経絡、全身に存在する経穴の概要を理解する。	1通	80	○			
○			東洋医学概論 II	東洋医学による診断ができ、治療に結びつけられるようにする。	2通	40	○			

医療専門課程 鍼灸科 I 部 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			経絡経穴概論Ⅱ	人体各部の経穴を教科書に記載されたとおりに理解し、実際の取穴法を修得する。疾病に関連する筋、神経、血管に対し施術する場合、それらの所にある経穴を取穴する。	2通	40	○			
○			運動器診断治療学	主に関節や運動に関係する症候(痛み)のうち、施術適応となる疾患の特徴、症状を理解し、更に、東洋医学的考え方を考察し治療に適應する。	2①	40	○			
○			症候診断治療学Ⅰ	鍼灸あんまマッサージ臨床を行う上で必要な診断・診察・施術の基礎的概念の学習を行う。また临床上遭遇しやすい症候に対して、東洋医学と現代医学からそれらの原因疾患を理解し適切な鑑別診断、検査法、施術が行えるように学習する。	2②	40	○			
○			症候診断治療学Ⅱ	Ⅰで学習した症候以外で临床上遭遇しやすい症候に対して、東洋医学と現代医学からそれらの原因疾患を理解し適切な鑑別診断、検査法、施術が行えるよう学習する。	3①	40	○			
○			治効理論Ⅰ	鍼・灸・あん摩マッサージ指圧の、基本知識、施術の意義、基本手法を理解する。	1①	20	○			
○			治効理論Ⅱ	鍼・灸・あん摩マッサージ指圧施術を行う上で必要な西洋医学的な治効理論の学習を行う。	3①	40	○			
○			社会はき学	現代社会において、特に高齢者、子ども、女性、スポーツ傷害に対する鍼灸師の業務、役割、特有な疾患の治療について概説する。	3①	40	○			
○			鍼灸実習Ⅰ	鍼灸師になるために必要な鍼の基礎知識を学び、正確かつ安全に行うことができる基本的な操作を身につける。また、鍼灸師として鍼療法を行うに当たって最低限必要な衛生学的知識と施術者としての心構えを修得する。	1通	80				○
○			鍼灸実習Ⅱ	鍼灸師になるために必要な灸の基礎知識を学び、正確ですばやく、かつ安全に行うことができる基本的な操作を身につける。また、鍼灸師として灸療法を行うに当たって最低限必要な衛生学的知識と施術者としての心構えを修得する。	1通	80				○
○			鍼灸実習Ⅲ	鍼灸臨床の場で経絡、経穴を十分活用できるよう、模型・標本、生体観察及び成書検索などを通じて、経絡の流注及び経穴の取穴の実際を身に付ける。	1通	80				○
○			運動器疾患の診断治療実習	鍼灸にかかる患者の訴えで最も多い症状である腰痛・肩こり・膝痛・五十肩などの運動器系疾患に対する具体的な診察方法や治療方法の基礎を学び、正確かつ安全な施術を身につける。 患者の症状を正確に捉え、的確な治療を行うため情報収集手段である医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 患者中心の考え方である問題志向型診療録(POMR)と各種診療記録の書き方を学ぶ。	2通	160				○

医療専門課程 鍼灸科 I 部 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			東洋療法実習	東洋医学による基本的な診断や治療を身につける。また、1年次で修得した基本技能をもとに、伝統的な刺鍼法・施灸法を修得する。	2通	80				○
○			鍼灸実習Ⅳ	基礎理論をふまえて各疾患に対し、診察・診断・治療ができる能力を修得する。	3①	80				○
○			鍼灸臨床実習	国家資格取得後、有資格者としての自立に向け、診療チームの一員として指導教員の指導・監督の下、外来患者の診療を実践し、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに臨床能力の基礎を理解し、実践する。	3通	90				○
○			総合講座 1	生理学の総括及び国家試験対策を行う。	3①	20		○		
○			総合講座 2	解剖・生理学の総括及び国家試験対策を行う。	3②	20		○		
○			総合講座 3	臨床医学各論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	40		○		
○			総合講座 4	東洋医学概論・経絡経穴概論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	40		○		
○			総合講座 5	東洋医学臨床論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	20		○		
○			総合講座 6	臨床医学総論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	40		○		
○			総合講座 7	リハビリテーション医学・病理学の総括及び国家試験対策を行う。	3②	40		○		
○			総合講座 8	衛生学・関係法規・医療概論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	20		○		
○			総合講座 9	鍼灸理論の総括及び国家試験対策を行う。	3②	20		○		

医療専門課程 鍼灸科 I 部 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	
○			総合講座 10	経絡経穴概論の総括及び国家試験対策を行う。	3 ②	20	○			
○			総合講座 11	東洋医学臨床論の総括及び国家試験対策を行う。	3 ②	40	○			
○			総合講座 12	鍼理論の総括及び国家試験対策を行う。	3 ②	20	○			
○			総合講座 13	灸理論の総括及び国家試験対策を行う。	3 ②	20	○			
○			医療面接基礎	医療面接の準備段階としてコミュニケーション技法や円滑な導入の方法を学ぶ。	1 ②	40	○			
○			医療教育	医療概論と医学史を学ぶことにより、医療の土台となる考え方を理解し、医療に興味をもてる生徒を育てる。また、医療人として必要な態度を学ぶ。	1 ①	40	○			
	○		中医学 I	1年時に学んだ東洋医学概論、経絡経穴概論を基に、中医学の人体の生理・病理を理解し、人体の基本となる構成物質(気・血・津液)の生成と循環を学習する。その上で、各種の弁証論治を行い、さまざまな症例を通し、臨床応用できる力を身に付ける。	2 通	80			○	
	○		中医学 II	治法に関しては2年時同様、八綱・気血津液・五臓・六経弁証に對し的確に施術方針を選択する。医案について、各症候に対する弁証論治を的確に行えるようにする。	3 通	80			○	
	○		経絡治療 I	経絡治療を行うために必要な東洋医学的な基礎診断理論と技術を学習する。	2 通	80			○	
	○		経絡治療 II	寒熱八証を用い疾患の治療を行う。	3 通	80			○	
	○		現代鍼灸 I	患者の病態把握を現代医学的に行い、鍼灸治療を行うための基本を身に付ける。	2 通	80			○	
	○		現代鍼灸 II	患者の病態把握を現代医学的に行い、鍼灸治療を行うための基本を身に付ける。現代医療の分野において、医師と共通認識をもった鍼灸治療を行う。スポーツ領域における鍼灸治療について、傷害部位別に①発生機序②検査法③鍼灸治療法④治療効果について学ぶ。鍼灸治療法は低周波鍼通電療法を中心に行う。スポーツ選手の傷害部位別(肩関節、腰部、膝関節など)の検査法、治療法を行う。	3 通	80			○	
		○	病態生理 I	【内科診断学】西洋医学における診察の基礎と実習や内科系疾患の診断と治療の基本を学び、伝統的東洋医学の違いを理解する。	2 ①	20	○			
		○	病態生理 II	【整形外科学】整形外科領域における病態生理の概要を理解する。	2 ②	40	○			
合計					59科目	3060単位時間				